

文政六癸未年五月廿日大坂維新橋筋唐揚町突

百廻忌正當

和泉屋理助  
賣所

赤子 ちか さら りん ぶきん ちや べ



津箱 依中祖

近松内書略傳

門外書

洛東

近松春屋軒藏月蓮

澤燭燈作者中興の祖先祖近松門倉の信譽本姓松葉氏  
 毛利家の臣にて長州萩藩小藩に在りて長州府小藩に在りて故に系師  
 長老と稱すは禪師小藩に會す別号を一抱子と名を醫者と妹を  
 編笠のつと能辨治を位て名を以て之を人知して天下に  
 卓然として當つ元禄の比仕友と近き東山又閑古一曾て博  
 學廣識の余り教戒の志厚く法華經普門品に云心称名觀世  
 音菩薩即時觀其音聲比日得解脫ト云又云妙音觀世  
 音梵音海潮音勝彼世間音是故須常念念念勿生疑觀

世音淨聖於苦惱死厄能為作依怙具一切德慈眼視衆生福聚海  
 無量曼故應頂禮也後之教考の大慈宗匠に在る侍法之以て  
 見女子の幼少を憐れむの心と法を以て淨より必死に因處の如き宗門  
 師部万大吏之流が如く極末に淨理の教能後世を我を又  
 振ふ振ふ主法老にあり別貞享年三年丙子二月四日始く○此世嘉清  
 の時代淨法を教へ出た又元禄十六年癸未五月廿七日おとろ  
 法を傳へて根所公中と云ふ新淨を里に傳へ竹本支を又た今此當  
 法に是を世に傳へて始り續く新淨の法百餘支を傳  
 へたる中におは後元年乙未十月廿日見三年癸未七月○國性



石碑てきひの自注のほかにの法名いそと曰い

阿禪院あぜんいん穆矣むく日一具足居士いちくそくこし

當山とうざん什物じぶつ法ほ并な經けい共共八品はつひん和歌わがの一軸いちしやく之の法ほ法ほ和わ當とう山ざん寺じ

元録げんろく交かう為ゐ六宵ろくせう日に奉納ほうなつ近松ちかまつ因いん處ちよと自みづか筆ひつ其その真まこと意い也なり○門かど左ひだり乃すなは松まつ女むすめの自みづか画ゑ夢ゆめ并な祥しやう世せいの軸しやく浪なみ毛け金かねを搦な持もち能よ其その身みをま持もち

○門かど左ひだり乃すなは松まつ女むすめの自みづか画ゑ夢ゆめ并な祥しやう世せいの軸しやく浪なみ毛け金かねを搦な持もち能よ其その身みをま持もち

為な本ほん家け系けい建けん信しん所しよ某なにかをま持もち○作つく本ほん文ぶんをま史しのりやく贈くわい傳でん○三さん弦げんのしゆ申まを表ひょう

○其その外ほか筆ひつ稿こうのしよ遠とほ書しよ亦また若し干かん近ちか松まつ春はる在あ好よし所しよ持もち人ひと

抑おさ因いん處ちよをま松まつとな稱なづとし其その叔しやく家けのしよ氏うぢとし治ち士しのしよ初はつとし是こゝをまとしとし

叔父は源義州河田郡村近松龍をよと今も次運跡と  
 して代村正を勅ひ平父因左の義出女の子孫を別又叔父の跡に  
 續ぐと年近松は氏名を傳ふが日爲の遺志を續て別津梅理  
 と書能一東山南ありと世に果しむ尚文政六癸未年すごに百廻  
 に正當なるかどよみ略化と著しく景林存が譽名と承傳と  
 著しんがため社と名をとりて止む

正福のこころを状

とめくつ作し枝の面ふやちあある程拓あがりの松

文政癸未六年

九月日

洛東 近松春屋軒織月

日本橋の外斎

